

TAKE FREE

MOVE

心が動くまちKOIWA



MOVEは、小岩の暮らしがもっと楽しくなる情報をお届けするフリーペーパーです。

2025 # 006



小岩に住む多くの人にとって心の拠り所でもある「小岩神社」。お宮参りや七五三、初詣やお祭りなど、人生の節目や地域の行事に寄り添い、長い間人々を見守ってきました。

まちは時代とともに姿を変え、新しく住む人も増えていますが「自分の住むところを守ってくださる神さまに」挨拶を」といふ思いは今も受け継がれています。気軽に参拝する人もいれば、心細いときに立ち寄り、ただ誰かと話したいと訪れる人もいます。

そんなひとりひとりを温かく迎えるのが、名譽宮司の関晴由樹さんと宮司の柚香さんご夫婦。お2人に、小岩神社の歴史や人とのつながり、そして変わりゆくまちの中で役割についてお話を伺いました。

——小岩神社の歴史について教えてください。

晴由樹さん：もとは千葉県の行徳にありましたが、1536年に下小岩村に社を移しました。今の萬福寺(東小岩2丁目)の隣です。天保の頃(1800年代前半)に萬福寺の火災で類焼し、幸い難を免れた御神体を現在の地にお遷(うつ)しました。小岩神社は長らく「五社明神」と呼ばれてきました。皆さん「三社様」というのは聞いたことがあるでしょうか？江戸時代には、ご利益のある神様を合わせるのが流行ったんです。ここは五柱もの神様を祀っているので、とても珍しいんです。

柚香さん：小岩神社という名前になったのは明治時代で、それまで五社様と呼ばれていた歴史のほうがずっと長いんです。神社前の通りは、今でも「五社通り」と呼ばれています。

——「小岩神社は小岩の氏神様だ」と耳にしますが、そもそも氏神様とは何のことでしょうか。

晴由樹さん：氏神様とは「自分の生まれた土地の神様」のこと。その土地と、そこに住む人を守ってくださる存在です。神社は一つの場所に「社」と決まっているんです。



小岩神社
江戸川区東小岩 6-15-15
03-3657-6168

柚香さん：つまり地名ごとに氏神様がいるんですよ。今は町名表示が変わっているのだから、いざいざ、昔の町会単位で見れば理解しやすいですね。

晴由樹さん：小岩には8つの神社があり、私が宮司を兼任しています。ただ普段私たちがいるのは小岩神社なので、お守りが欲しいとか御祈願を受けたいというときには、皆さんこちらにいらっしゃいます。そのため、小岩の方々にとって「小岩の総鎮守＝小岩神社」という意識が自然と広まっているようです。

柚香さん：氏神様は自分たちのお宮だから、地域の人たちが皆でお守りするということ意識が昔からありました。お祭りも自分たちで準備して、お神輿(みこし)を担ぐ。そうした習わしが根づいていますよ。

——小岩の方は皆さん、お神輿が地域の自慢だとおっしゃいます。今年も例大祭がありましたか、お祭りは神社や土地の人にとってどんな存在ですか。

晴由樹さん：例大祭は神社に欠かせない行事です。普段は閉じている御扉を開けてお供えをし、舞を奉納して神様に喜んでいただく。その分け御盃(みづか)をお神



足に関するけがや病気の治癒を祈願する「わらじ石」。

商売の神様として人気の高い稲荷社も境内にある。



小岩神社の御朱印。季節によって変わるスタンプが人気。

小岩の氏神様 小岩神社が見守る「まち」と「人」



小岩神社宮司 関 柚香さん

——小岩は、ほかの地域よりも氏神様との結びつきが強いのでしょうか。

晴由樹さん：小岩に長く住んでいる方は、お宮参りや七五三も「氏神様に詣でるのが当然」と考える人が多いです。でも若い世代だけで新しく住んだ方は、氏神様がどこか分からず都内の大きな神社に行くこともある。もちろん、「ここにお詣りしても、風習自体残ればありがたい話です。ただ、本来はその土地とそこに住む人を守ってくださる氏神様に、お子さんの成長を見守っていただく節目の行事。そういう意味を伝えていきたいですね。

柚香さん：神社離れが深刻かという点でもなく、若い方のお詣りがとても増えていきます。御朱印ブームや神事を描いたアニメの影響もあるようです。精神的な支えを求めている人が増えているのかもしれないですね。

晴由樹さん：神社は日本古来の存在だから、言ってみれば「しつくりくる」。お伊勢詣りが流行っているのも、そうした背景がある気がします。



小岩神社名譽宮司 関 晴由樹さん

柚香さん：観光地的な神社と、生活に根差した神社を皆さん上手に使っています。小岩は商店も多いので、商売繁盛を願って毎日のように参拝に来る方も多そうですね。

晴由樹さん：日本人のいいところは「感謝の気持ち」を持っていること。家族が元気で、商売がうまくいって……そんなありがたさの心を氏神様に伝えるにきてくださるのは本当に嬉しいです。

——最近小岩のまちも変わってきていますが、代々小岩を見守り続けてきた存在としてどう感じますか。

晴由樹さん：新しく住まれる方から「小岩ってどんなまちですか？」と電話をいただくこともあります。神社に聞けばわかると思うってくださっているんですよ。

柚香さん：今はお宮参りや七五三も神事ではなくイベントとして捉えている方が多いと思います。でも、神社に来てくださること自体がありがたいなと感じます。ここに住まいがあって生活があるわけですから、守ってくださる神様に「挨拶を。そう思うっていただける嬉しいですね。



——最後に、小岩に住む皆さんに伝えたいことはありますか。

晴由樹さん：それがまちの繋がり、人の繋がりになっていく。そういう積み重ねが伝統になるわけです。繋がりが無いと、人は生きづらいですよ。

柚香さん：今は、みんな繋がりたいと思っても難しい時代です。町会組織が昔のように強ければいいけれど、強制もできないですね。

晴由樹さん：だからこそ、盆踊りのようなまちのイベントは大切です。そういうものをきっかけに地域の繋がりを思い出ししてほしい。お父さんお母さん世代が背中を見せて、受け継いでいってほしいなと思います。

——最後に、小岩に住む皆さんに伝えたいことはありますか。

晴由樹さん：こうして神主の装束を着ていると、どうしても話しかけづらい雰囲気になってしまっているんですよ。でも私たちも普通の人間ですから、気軽に声をかけていただきたいです。幸せが続いてほしいと願うときも、苦しくて神頼みをしたときも、あるいはただ誰かに話を聞いてもらいたいときも、ここにきてほしいです。

晴由樹さん：ええ。神社は祈るだけの場所ではなく、皆さんが安心できる場所でありたい。人と人との縁をつなぎながら、これからの小岩のまちを見守っていきます。

KOIWA

ジャーニー



今回のジャーニーは、ちょっとおしゃれな「チーズ料理」の旅。
ボリュームたっぷりの定番料理から意外な組み合わせまで、チーズという
素材の大胆さと懐の深さに、KOIWAの魅力を重ね合わせて楽しみましょう！



山形の魅力を余さず味わう上質な空間

山形県出身のご主人が手がける“山形”を堪能できる店。山形牛のしゃぶしゃぶやステーキが看板メニューだが、チーズを取り入れた個性的な一品料理も人気。昼ときには、山形の素朴な郷土料理を定食スタイルでいただける。



2



3



やまがたや

江戸川区南小岩8-11-9 ラ・ブルミエ1階
11:30~14:00/17:30~21:00

- ◎日曜休（木・土曜は夜のみ、金曜は昼のみ営業）
- 1 生マッシュルームとパルミジャーノチーズのサラダ 1,078円
削りたてのチーズとマッシュルームの香りが重なり合う、至福のひとつ。
 - 2 米沢豚のシュウマイと旬野菜のせいろ蒸し定食（ランチ）1,500円
手ごね、手包みのジューシーなシュウマイ。山形から直送の旬野菜と合わせて蒸し上げる。定食には漬物、味噌汁、生卵、ごはんがつく。
 - 3 玉こんにゃくブルーチーズソースかけ 968円
山形「湯坊いちらく」の人気メニューをオマージュ。ひと癖あるブルーチーズが出汁醤油味を引き立てる。

※価格は全て税込です。



4

アメコミ風のダイナーで、ハンバーガーを頬張ろう

「ベースメント」（本来は地下室の意味）と言いつつビルの3階に位置する店。北口開発に伴い2022年に移転するまでは、店名通り地下のお店だった。店主の趣味であるオブジェやおもちゃが店いっばいに飾られている。広くてポップな店内はパー初心者にもおすすめ。これからの季節はホットカクテル。



5



Bar Basement

江戸川区西小岩1-27-30 第3関根ビル3階
11:30~14:30（L.014:00）日曜のみ
17:30~25:00（L.024:30）

- ◎月曜、第3日曜
- 4 ダブルチーズバーガー 2,020円
粗めにひいた牛肉を100%使用した肉々しいパティが特徴。チェダーチーズがふれ出るチーズバーガーは見た目も圧巻！
 - 5 シカゴクラシック 2,980円
高さ4.5cmと大迫力のシカゴピザ。ふっくらボリュームがあるパン生地も自家製。
 - 6 コンビーフのチーズ焼き 730円
どんなお酒にも合いそうな、クセになる組み合わせ。程よいジャンク感も良い。



6



【本格チーズ料理 × 地元酒場】ラクレットチーズを気軽に楽しむ

店名は、店主の出身である与論島の言葉で「レッツゴー」の意味。7年前の開店当初から、ラクレット料理を看板に掲げる。店内の雰囲気は気さくな「地元のバー」。ラクレット以外は典型的な居酒屋メニューというギャップが楽しい。



7



8



9



でーばあー

江戸川区南小岩6-17-5 2階
16:00~24:00

- ◎水曜、第3火曜
- 7 ラクレットチーズ おまかせプレート 1,650円
お好みの具材に溶かしたラクレットチーズをとりとけかけ、スイス発祥の料理。独特の旨みや香りを持ったチーズが具材を引き立てる。
 - 8 青唐ふっかけ冷ややっこ 440円
 - 9 アンチョビポテト 550円
「チーズ以外は普通のものばかりで…」と店主は謙遜するが、気取らないメニューに居心地の良さがにじむ。

古今東西南北小岩

広々とした江戸川



江戸を守る要所

小岩には、国道14号やJR総武線、京葉道路など東京と千葉を結ぶ大動脈が通り、江戸川にはいくつもの橋が架かっている。しかし江戸時代、江戸川に橋をかけることは禁止されていた。江戸を防衛するためだ。

そのため当時、川を越える手段は「渡し」、つまり舟しかなかった。そのひとつが「小岩市川の渡し」だ。この渡し場の近くには江戸幕府により関所が設けられ、舟で渡る旅人たちを厳しく取り締まった。「入鉄砲に出女」という言葉があるが、人数の確認、荷物の検査、武器の有無、旅装の確認など、関所の役割は多岐にわたった。

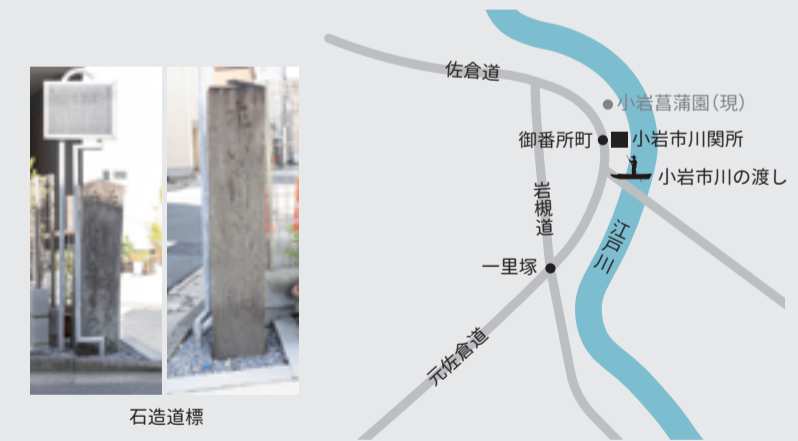


関所跡



かつての御番所町

1973年撮影、御番所町があったあたり（北小岩3-23-7）。写真左側の石造道標は、岩槻、江戸、市川の三方向を示している。©Edogawa



街道が交わる「御番所町」のにぎわい

関所周辺には、江戸と房総を結ぶ複数の街道が集中していた。大名行列が通った「佐倉道」、成田参詣で知られる「元佐倉道」、慈恩寺（埼玉）への参詣に利用された「岩槻道」などである。人と物が集まる関所の周りには「御番所町」と呼ばれるにぎやかな町並みが広がり、旅人の腹を満たし、心を癒やす場となっていた。

1869年（明治2年）に関所は廃止、1905年（明治38年）には江戸川橋（現在の市川橋あたり）が架けられ、渡しはその役割を終えた。今は静かな住宅街だが、史跡を辿りながら歩けば、かつてのにぎわいを感じられるかもしれない。



01 音曲堂
江戸川区南小岩 7-26-21 ペカサス
ステーションプラザ小岩 113
10:00～18:30
☎ 月曜
03-3659-3131



**02 ドトールコーヒーショップ
小岩駅南口店**
江戸川区南小岩 7-24-20
7:00～21:00
☎ 無休
03-6801-7808



03 小岩図書館
江戸川区東小岩 3-6-9
9:00～21:30
☎ 第4月曜、特別図書整理
期間、年末年始
03-3672-0251



わたしの小岩の歩き方 JUSABUROU NOJIMA

フラワーロードからサンロードに移転した老舗レコード店「音曲堂」の前で、かつて使われていた包装紙を手にする野島さん。

小さな紙クズが語り始める、小岩の歴史とこれから

「まあ、これを見てごらん。日本にあるすべての本が、この目録に収められているんだ。」
初対面の挨拶などお構いなしに、いきなり厚い本を差し出された。細かい活字がびっしり並ぶそのページに顔を寄せ夢中になる姿は、まるで少年のようだ。
野島寿三郎さん、御年93歳。受け取った名刺には「歴史調査研究・ペーパーコレクター」と書いてある。紙と名がつけば何でも追いかけて、チラシや包装紙さえも宝物にしてしまう野島さんの収集癖は、まちの記憶を保存する役割も果たしてきた。

今回は、小岩に住み始めて30年ほどになるという野島さんのくらしと収集活動についてお話を伺った。
各地を経て小岩にたどりついた野島さんの歩み

野島さんは岩手県盛岡市で生まれ、東京、長野に移り住んだ後、ソウルへ。龍山区の国民学校に通っていたが、戦況が悪化しロシア経由で盛岡に戻った。敵兵に見つからないよう息をひそめながら、10日ほどかけての船路だったという。帰郷した後は、中学・高校と学生生活を送った。「どうしても東京に行きたかった」という理由で早稲田大学に進学。大学では文学部に在籍し、江戸時代の文学を学んだ。「こういう古書が読めるのも、そこで勉強したおかげ」。在学中に始めた仕事が軌道に乗り、大学は中退したが、自主的に歴史や文学の勉強や研究は続けた。特に歌舞伎や浄瑠璃、浮世絵などへの造詣が深く、多数の著書を残している。

その後は都内数か所をくらしした後、『歌舞伎人名辞典』(日外アソシエーツ)を編纂するために小岩に腰を据えた野島さん。今も図書館や喫茶店に江戸時代の古書を持ち込み、解読作業を続けているそうだ。「小岩図書館で資料を探してもらったら、自分の本が出てきたときには笑っちゃったね」と愉快そうに話す。

「紙に魅せられて」収集活動の原点とは

そんな野島さんのもう一つの肩書は、ペーパーコレクター。「紙クズですよ。どんな立派なものでも放っておけばゴミになるでしょ。そんなものばかり集めているわけ」

めて30年になるけど特に思い入れはないし、気に入っている店も浮かばないんだよ」と照れくさそうに話しているが「ああ、『らむぶ』は好きだったね」と膝を打った。『珈琲らむぶ』は小岩駅南口そばにあった喫茶店だ。かつては毎日のように通い、珈琲を飲み昼食を食べていた。そこに行けば会える仲間がたくさんいて、店に置いてあるギターを弾いて聴かせることもたびたびあったそうだ。小岩駅南口の再開発で今は閉店となったが、仲間たちとの交流はまだ続いており、跡地がほぼ近い場所に立ったドトール小岩駅南口店が新たな集いの場所となっている。「私の名前に入っている『寿』の字を取って、毎週日曜の朝ここで『寿会』という会を開いているの。同年代の人と集まってワイワイ話している。珍しい紙クズを持っている人がいたら、ぜひ見せてほしいな。」

何気ない日常の中にもこそ見えてくるまちの物語

「もう病氣なんだよ」と笑いながら集め続けてきた紙クズが、気づけば小岩というまちの記録になっていた。日々のくらしの中の小さなものに目を凝らすこと。それは、まちを知り、愛着を深める最初の一歩だ。あなたの身の回りにも、まだ気づいていない物語が隠れているかもしれない。

※国書総目録(全巻)、索引、巻/岩波書店は、江戸以前の書物を網羅した書誌集成。



profile 野島寿三郎 (のじま じゅさぶろう)

歴史家・紙くず研究家。1932年岩手県盛岡市生まれ。歌舞伎・浄瑠璃・浮世絵など江戸文化の研究に携わり、『歌舞伎人名事典』『歌舞伎・浄瑠璃外題事典』『日本の紙クズ』など著作多数。「日本絵葉書会」顧問を務め、テレビ番組出演経験もある。



昭和38年発行の地図。手描きでデザインされた広告欄も味わい深い。



2018年閉店した『珈琲らむぶ』。昭和レトロな外観とアンティークで重厚感のある内装が多くの人に愛されていた。



居酒屋で知り合った仲間が今は身の回りの世話をしてくれている。小岩らしい人情の濃さ。



時刻表も箸袋も「小岩」の文字が入っていればとろあえず収集する。



一番のお気に入りには切符のコレクション。「最近の切符は印字が消えやすくて」と嘆く。



貴重な古書を多数所有。解読作業や研究を進めている。

と冗談めかす野島さんだが、時を経たコレクションは時代を物語る貴重な資料となっている。江戸・明治・大正・昭和期に実際使われていたチラシやチケット、パッケージなどを収録した著書『日本の紙クズ』『J.E.ブックス』は、海外でも好評を博しているという。
野島さんの収集癖は、幼少期までさかのぼる。「小学校に上がる前は石ころやメンコ、ビー玉、もう少し大きくなったらコインや切手。とにかく何でも集めていた。大人になってもやっていたことはあまり変わらないね。」
それが紙クズに集約されていった理由を尋ねると「収納性。集めると何でも場所を取るでしょ。紙クズはべたんとしまっておけるから」という現実的な答えが返ってきた。
紙クズが語る小岩のまちの歴史
膨大にあったコレクションは人に譲るなどして整理し、今手元には、江戸川区や小岩に関わるものを多く残しているそうだ。例えば昭和30年代に手にした小岩駅周辺の地図。当時は地域の地図にすぎなかったものが、半世紀以上たった今ではまちの変遷を物語る資料になっている。今も残る老舗の広告を見るのもおもしろい。
「ほら、これは音曲堂の包装紙。音曲堂の先代の社長とは家族ぐるみの付き合いだね。昔音曲堂のフロアを借りて『何でも交換会』をやったこともあるんだよ。家にあるいろいろなものをみんなで持ち寄って交換するの。昔は音曲堂の裏に『音の博物館』っていう施設があったんだけど、そこが閉まるたびに社長に呼ばれて、貴重な紙クズをもらえたりして……」と話が尽きない。
歴史的に価値が出そうなものや、デザインが優れているものを選んでおきたいと思いきや「基準なんてないよ。小岩って文字があればなんでも取っておく。ティッシュの包み紙でも駅前で買ったチラシでもとにかくファイルにしまっただと野島さん。「だからもう、病気だね」と悪びれず笑う。集めること自体が楽しい。その根っこは、少年時代に右(さ)を集めていたころと変わらないのかもしれない。
仲間がいるから充実する。小岩でのくらし
これまで数えきれないほど引っ越しをしてきた野島さんが、人生で一番長く住み続けているのがこの小岩。「住み始



MY KOIWA style

あなたの好きな「小岩」を教えてください。

小岩でおすすめのお店やスポットを紹介する投稿コーナー。読者の皆様から、素敵な情報をお送りいただきました。ありがとうございます。投稿はまだまだ募集中！皆さんもぜひ、小岩のお気に入りを見せてください。



MOVE読者投稿フォーム ▲

01 小岩ホルモン



一見さんでは少し入りづらい雰囲気ですが、店内は明るく美味しいホルモンが食べられます。ランチで行ったのですが、お肉のボリュームもあって、コスパ抜群！ホルモンはプリプリで炭火で焼くので風味も最高！つついとお昼からビールを飲みたくなってしまふ…ホルモン屋は夜に行くイメージですが、ランチもお得で大満足できますよ！（投稿者：どぐうたら）

02 カフェ ワンシープ cafe Onesheep



美味しいコーヒーが飲みたいときはここ！店主が丁寧に淹れる本格コーヒーに加え、ランチからカフェまでメニューが充実。中でもお気に入り自家製シフォンケーキ！定番に加え季節限定の味も登場するので、つい足を運んでしまいます。ランチタイムは満席になることが多いので、ゆったり過ごしたい方はカフェタイムがおすすめ。（投稿者：くるみ）

03 げんき 元味



小岩駅から続く商店街「フラワーロード」にあるうどん屋さん。スタッフのみなさんがいつも優しい笑顔で迎えてくれます。ボリューム満点のかしわ天は、揚げたてでサクサク、ジューシー。うどんは太麺と細麺から選べて、食感の違いを楽しめます。自家製のメンマも絶品！休日に夫と昼飲みするのが私たちのひそかな楽しみです。ランチはお得な定食もありますよ。（投稿者：A.S）

子どもから大人まで夢中！わくわくクレープ体験記



小岩のわくわくを日々探し求める編集部が、気になるコトを体験レポート！今回は、小岩で大人気のクレープ屋さん『タナミクレープ』さんに KOITTO スタッフがお邪魔して、夏休みや冬休みなどの長期休みに不定期で開催されているクレープ焼き体験にチャレンジしてきました！（取材 ヒロコ・ツバキ / KOITTO スタッフ）



店主の田波さん



小岩のまちを歩いてたどり着いたのは、シンプルなお店にカタカナのロゴがおしゃれなクレープ屋さん。地元の人に愛されるこのお店で、今日は自分だけの一枚を作ってみます！
ドアを開けると、店内に並ぶかわいい雑貨やアクセサリーと、甘い香りに迎えられ、気分が一気に高まります。まずは店主の田波さんが、クレープ生地を流し、トンボと呼ばれる木の棒で中心から円を描くように生地を伸ばしていきます。これが想像以上に難しく、自然と力が入ります！
「精神統一が大事ですよ」とのアドバイスを胸に挑戦した結果、なかなか見栄えのよい生地が焼けて、思わず笑顔に！



編集部が行く！

クレープ焼き体験



■ 開催日 ■
不定期 (Instagramにてお知らせします)
■ 料金 (税込) ■ 2025年10月時点
大人：2,000円
子ども：1,500円 (小学生まで)
親子割：3,000円 (大人1名+子ども1名)
兄弟姉妹追加：+1,200円 (1名につき)
未就学児：+500円 (トッピングのみ)
※トッピングのみの参加は不可

タナミクレープ

江戸川区西小岩 5-1-5
(小岩駅北口徒歩 5分)
営業時間：昼前～夕方予定
Ⓢ 不定休
(営業日、時間はInstagramにてお知らせします)



注文ごとに一枚ずつ丁寧に焼き上げる、パリもち食感でボリューム満点のクレープと、種類豊富な完熟バナナシェイクのお店。人気の「クレープ焼き体験」は不定期開催。開催日や料金はInstagramをご確認ください。

続いてトッピング。まずは、こだわりの「ホントノチョコレイト」をたっぷり。使用しているのは、製菓用の「クーベルチュールチョコレイト」を溶かしたもの。一般的なチョコレイトソースに比べて、より濃厚でビターな味わいが楽しめます。
次に、ホイップクリームを絞り、イチゴとバナナをトッピング。製菓用のチョコレイトは冷凍のダイスカットイチゴと合わせるとうんやり固まり、パリッとした食感が生まれます。仕上げに、みんな大好きな「カラスブレ」をパラパラとかけて包めば完成です。
いざ美食！「うちのクレープはできたてが一番！」という言葉通り、パリッ&もちっと食感のクレープを頬張った瞬間、思わず笑みが。チョコレイトの「冷たくてパリッ」とした瞬間もクセになります。自分で作る楽しさと、作りたての美味しさを同時に味わえるのはこの体験の醍醐味です。
そしてもう一つ、この店ならではの魅力が、店主が厳選したハンドメイド作家による一点ものの雑貨たち。子どもから大人向けまで幅広いラインナップで、オーダーも可能です。雑貨目当てに訪れるお客様もいるほどの人気ぶり。コジットテラスにも置いてくださっている作家さんの小物もありました！

田波さんはクレープ店を始める前から、イベント開催などを通して「頑張る人」を応援する活動を続けてきました。お店にハンドメイド作家の売り場を設けたのも、その想いのひとつ。今もお祭りの縁日コーナーや子ども向けイベントに参加し、地域を盛り上げています。そんな温かなつながりがこのお店を「人と人がつながる幸せの場所」にもしています。味にも素材にもこだわったクレープに、一点もののハンドメイド雑貨がそろったお店。ここに来れば、きつと笑顔になれるはず。ぜひ足を運んでみてください。（文：ツバキ）



MOVE ~心が動くまち KOIWA #006 2025年10月末日発行

企画・発行 一般社団法人小岩駅周辺地区エリアマネジメント (KOITTO)
〒133-0056 東京都江戸川区南小岩 7-24-20
FIRSTA | (ファスタワン) 1階 KOITTO TERRACE (コジットテラス)
TEL 03-6657-8007

編集 まいぷれ江戸川区 (株式会社京葉十二社広告社)

編集後記

読者の皆さま、今号も最後までお読みいただきありがとうございます！第6号となる今回は、大先輩のコレクションから若者が大好きなクレープまで幅広く取材させていただきました！改めて感じたのが、小岩はただの「飲めるまち」ではなく、まちとしての歴史や文化がしっかりとあること。歴史のある神社があり落ち着いた散歩ができるといふや、駅前には美味しくて賑やかな飲食店が多数…単なる繁華街ではなく、親しみやすい店主さんが多く、通いたくなるお店や会いに行きたくなる人がたくさん見つかります。これからもMOVEを通してみなさんに小岩の魅力をもっと伝えたいと思います。（ヒロコ / KOITTO スタッフ）

「MOVE～心が動くまち KOIWA」は、KOITTO（一般社団法人小岩駅周辺地区エリアマネジメント）が年2回企画・発行するフリーペーパーです。本誌はKOITTO TERRACEにて配布しております。ラック設置店舗も募集中です。